



令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

としま能の会 能楽アウトリーチ公演

実施レポート

としま能の会 能楽アウトリーチ公演

実施レポート

企画・発行

公益財団法人としま未来文化財団 事業企画課 事業企画グループ

助成

令和6年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

としま能の会

能楽アウトリーチ公演

実施レポート

はじめに

公益財団法人としま未来文化財団では、古典芸能に触れる機会の少ない世代にも日本の伝統芸能を知ってもらうべく、令和5年度より、豊島区内の小中学校を対象とした能楽の出前公演を実施しております。

この報告書では、「としま能の会 能楽アウトリーチ公演」申込の流れや公演概要とともに、令和6年度に実施した学校の記録や子どもたちの声などを掲載しています。

豊島区が掲げる「日常にアート・カルチャーが溢れるまち」の考えに基づき、未来を担う若い世代が、文化に触れ、参加・体験できる機会創出のため、この取組みを発展させてまいります。

公益財団法人としま未来文化財団

としま能の会 能楽アウトリーチ公演概要 3

アウトリーチ実施の流れ・事前打ち合わせについて 4

令和6年度実施プログラム紹介

プログラム①小学校／狂言アウトリーチ公演 5～6

プログラム②中学校／能楽アウトリーチ公演 7～8

実施報告

令和6年度実施の感想・参加者の声 9～10

◆公益財団法人としま未来文化財団

昭和60年4月、豊島区における区民文化施設・スポーツ施設等の管理運営や区民文化活動の振興発展を目的に、「財団法人豊島区コミュニティ振興公社」が設立され、平成17年4月には、「財団法人豊島区街づくり公社」を統合し、文化と都市再生をキーワードとする「財団法人としま未来文化財団」が誕生しました。

「財団法人豊島区コミュニティ振興公社」発足以来、一貫して豊島区における文化創造都市の形成に取り組み、平成20年度、豊島区が「文化庁長官表彰」（文化芸術創造都市部門）を受賞することに貢献できました。

魅力ある豊島区づくりのため、「文化による地域づくり・人づくり」をめざし、利用者の立場に立った施設運営とともに、文化芸術事業並びに地域づくり事業の推進に努めています。

担当部署 事業企画課 事業企画グループ
〒170-0013
東京都豊島区東池袋1丁目20番10号
TEL:03-3590-7118 FAX:03-3984-0865

◆としま能の会 能楽アウトリーチ公演概要

豊島区内で35回開催されてきた「としま能の会」出演の能楽師を豊島区内の小中学校に派遣し、解説と実演を行うアウトリーチ公演です。教科書にも登場する能楽を本物の能楽師から学ぶことにより、日本の伝統芸能の知識や理解を深める機会を子どもたちに提供する事を目的に実施しています。
また、令和6年度は中学生向けに能楽堂でも公演を実施。実施校の希望を伺いながらプログラムのアレンジも行い、子ども達にとって素晴らしい伝統芸能との出会いの場を作り出しています。

実施方法	能楽(能・狂言)の出前公演 ※事前打ち合わせ必須
実施対象	豊島区内小学4～6年生、中学1～3年生
実施場所	各学校体育館、能楽堂など
料金	学校での実施の場合、学校側による費用の負担はございません



としま能の会とは

豊島区に所縁のある能楽界を代表する一流の演者による能楽公演。
初めて鑑賞する方も安心してお楽しみいただくための一環として、観世流シテ方能楽師・観世喜正師による上演前の「演目解説」、当日パンフレットへの「解説」を掲載し、どなたでも公演を楽しめる事業展開を行っている。
昭和63年、「東京国際演劇祭池袋'88」参加演目「としま新能」として第1回を開催。上演にあたり、山崎有一朗氏監修のもと、東池袋中央公園に特設能舞台を設け、豊島区在住の狂言方泉流能楽師・初世野村萬師(当時 四世万之丞)をはじめ能楽界の最前線で活躍する一流の能楽師が出演した。以降、平成7年まで同会場で開催した後、平成8年からは東京芸術劇場プレイハウス(当時、中ホール)に会場を移し「としま能の会」として開催を継続。令和4年度に豊島区立芸術文化劇場(東京建物 Brillia HALL)にて35回目を開催している。



第33回としま能の会 ©新宮夕海

◆アウトリーチ実施の流れ

1	能楽アウトリーチ公演実施のご案内	としま未来文化財団より、各学校へ能楽アウトリーチ公演のご案内をいたします。令和6年度は、校長会にてご案内いたしました。
2	お申し込み	ご案内に添えた申込書に必要事項を記入の上、FAXまたはメールにて送付いただきます。
3	実施可否のご案内	申込締切後、公演の実施可否についてお電話またはメールにてご連絡いたします。
4	事前打ち合わせ／実施場所の決定(下記参照)	公演実施の概ね1か月前までに、公演内容・当日の流れなどについて財団担当職員が現地に伺い打ち合わせを行います。打ち合わせにおいて実施場所を決定し、下見させていただきます。
5	公演実施	財団担当職員が現地に伺い、公演を実施いたします。

◆事前打ち合わせの流れ

1	日時の決定・確認	実施決定後、事前打ち合わせ日時を決定いたします。
2	事前打ち合わせ実施(1時間程度)	公演実施当日に担当する財団職員が実施場所へ伺います。主に以下の内容について、確認いたします。 ・公演内容(実施日時、担当教員、参加人数、公演の流れなど) ・実施場所の確認 【以下、学校での実施の場合】 ・舞台装置(バトンや照明)の確認 ・講師待機場所の有無 ・当日車両駐車スペース 資料は財団よりお持ちいたします。打ち合わせ時に実施場所の下見ができるよう、空き状況の確認を予めお願いいたします。
3	打ち合わせ内容の送付・確認	打ち合わせ内容をまとめたもの・当日スケジュールを、公演7日～10日前までにお送りいたします。確認の上、変更がある場合は早めのご連絡をお願いいたします。



◆令和6年度実施プログラム

小学校／狂言アウトリーチ公演

小学6年生の国語の教科書に「狂言 柿山伏」が登場します。この狂言アウトリーチ公演では、狂言についてのわかりやすい解説の他、簡単な狂言体験、実演鑑賞等を行います。公演の最後には質問コーナーも設けています。

- 実施対象** 小学6年生 ※要望に応じて、他学年・保護者の参加も可能です。
- 実施時間** 45分～50分 ※90分など時間を延長して実施することも可能です。
- 実施場所** 各学校体育館



幕や柱を設置して、通常の体育館から能舞台のように雰囲気を変えて公演を実施しました。

◆令和6年度実施校一覧

No.	学校名	実施会場	実施日時	鑑賞者	備考
1	巣鴨小学校	体育館	10月 9日(水) 10:30～11:15	6年生 2クラス48名	
2	池袋本町小学校	体育館	11月19日(火) 11:15～12:00 13:25～14:10	6年生 4クラス142名	2クラス×2回実施
3	駒込小学校	体育館	11月20日(水) 10:35～11:25	6年生 2クラス77名	
4	目白小学校	体育館	12月 5日(木) 9:30～10:20	6年生 3クラス86名	
5	池袋第三小学校	体育館	1月24日(金) 10:35～11:25	6年生 3クラス60名 5年生 3クラス75名 保護者 2名	

◆プログラムの内容(基本的な流れ)

内容	時間	詳細
ごあいさつ、講師紹介		財団からのごあいさつ、狂言師の紹介
狂言についての解説	15分	狂言師より、狂言について解説をします。 【例】・狂言とは(歴史、特徴について) ・狂言の声の出し方を実演 ・能舞台の説明(なぜ松の木が描かれているの?) ・小道具の説明(扇のさまざまな使い方) 解説の最後に、次に見ていただく「柿山伏」のあらすじ説明があります。
実演鑑賞「柿山伏」	15分	狂言「柿山伏」の実演を鑑賞します。 〈登場人物〉・山伏 ・柿の木の持ち主
狂言体験コーナー	10分	狂言師による、狂言体験コーナーをおこないます。 【例】・正座から、姿勢を正しての立ち方→座り方 ・狂言「柿山伏」より、柿の実をもぎとり、食べる所作 ・狂言の笑い方、泣き方 ・狂言に登場する動物の体験
質問コーナー	5分	子どもたちからの質問に、狂言師が答えます。
終わりのごあいさつ		財団より、終わりのごあいさつをします。

※上記は、プログラムの基本的な流れです。
ご要望に応じて、プログラムの内容、時間配分などアレンジが可能です。

◆配布資料など

事前の告知動画	<p>公演実施の1～2週間前に、告知動画をお送りします。狂言師が子どもたちに、「今度みんなの学校に行きます」と呼びかける30秒程度の短い動画です。</p> <p>動画はこちらよりご覧いただけます▶</p>   <p>(野村万蔵家 野村万之丞、野村拳之介)</p>
当日パンフレット	<p>公演当日のプログラム、演目解説、小道具の説明などが入ったプログラムを全員に配布いたします。</p> 

◆令和6年度実施プログラム

中学校／能楽アウトリーチ公演

中学3年生の音楽の教科書に「能 敦盛」が登場します。この能楽アウトリーチ公演では、能楽についてのわかりやすい解説のほか、簡単な能楽体験、楽器紹介、実演鑑賞等を行います。公演の最後には質問コーナーも設けています。

実施対象	中学3年生
実施時間	約100分 ※ご要望に応じて調整可能です。
実施場所	矢来能楽堂（東京都新宿区矢来町60）



令和6年度は学校のご要望に答えて能楽堂で公演を実施しました。学校の体育館での実施も可能です。

◆令和6年度実施校一覧

No.	学校名	実施会場	実施日時	鑑賞者
1	千登世橋中学校	矢来能楽堂	3月5日(水) 13:30~15:30	3年生 120名

◆プログラムの内容(基本的な流れ)

内容	時間	詳細
ごあいさつ、講師紹介		財団からのごあいさつ、能楽師の紹介
能楽についての解説	20分	能楽師より、能楽について解説をします。 【例】・能楽とは（歴史、特徴について） ・能楽堂の説明 解説の最後に、「敦盛」のあらすじ説明があります。
能楽体験コーナー	20分	能楽師による、能楽体験コーナーをおこないます。 【例】謡・すり足・能面
～休憩(10分)～		
楽器の紹介	15分	能楽の楽器を紹介します。 囃子方による模範演奏もおこないます。
実演鑑賞 半能「敦盛」	25分	能「敦盛」（ダイジェスト版）の実演を鑑賞します。
質問コーナー	5分	生徒からの質問に、能楽師が答えます。
終わりのごあいさつ		財団より、終わりのごあいさつをします。

※上記は、プログラムの基本的な流れです。
ご要望に応じて、プログラムの内容、時間配分などアレンジが可能です。

◆配布資料など

事前学習資料	公演実施の2週間～1か月前に、能楽についての事前資料を送付いたします。「能楽豆知識」や当日ご覧いただく演目の場面解説など、学校の授業でご活用ください。
当日パンフレット	公演当日のプログラム、演目解説、謡体験の詞章などが入ったプログラムを全員に配布いたします。



◆令和6年度 実施の感想

～小学校／狂言公演～

参加者の声

ぼくは、柿山伏を見て、1つ1つの所作がとてもいいですね！と思いました。また狂言の体験コーナーでは、自分も狂言師になったような気分になって楽しかった。今度は、別の作品を見てみたいと思った。

今日はありがとうございました。今日の学習で狂言のおもしろさ、迫力をしり、狂言をもう一回べつものを見てみたいと思いました。どうしたらあそこまでの迫力のある声をだせるのか不思議でした。

私は、狂言の「柿山伏」を見て、マイクを使わずに全員に聴こえる声を出す工夫を知りました。それと迫力や表現もすごくておもしろかったです。

犬のなき声の感じ方が昔と今で変わっていたり犬のイメージも昔はきょうぼうだったことにびっくりしました。また体験してみたいです。

私は、狂言「柿山伏」が、室町時代から受け継がれてきたことを知って、おどろきました。なぜなら、受け継ぐためには、たくさんの方が努力しなければならぬと思うからです。なので、そんな昔から多くの人によって受け継がれてきた狂言のことをもっと知って、これから先も伝えていきたいと思いました。

少ないセットであるからこそ、たくさん想像できて、想像力がふくらむなと思いました。本当にありがとうございました!!

演技にこめられた情熱や伝統芸能への深い理解が伝わり自分にとって心に残るひとときとなりました。

私は柿山伏を見てあまり小道具を使っていないのに、行動がとてもわかりやすかったのでもっとおどろきました。そして柿を取り、食べる動作のところも柿がだんだん小さくなっていることがよく伝わり、細かいところまで工夫されていてすごいなと思いました。

日本の古典芸能でもっとも長くつづいているときいてびっくりしました。声を出すときも、はらに力を入れるということがわかってうたをうたうみたいだなって思いました。

担当教員からの声

Q.印象に残った内容をお聞かせください。

- ・体験（立ち振舞や声の出し方）
- ・国語の学習にある古典芸能の世界に示されている「柿山伏」を実演していただいたことや体験活動の内容が良かった
- ・野村万之丞先生による解説、柿山伏の実演

Q.ご感想・ご意見などを自由にご記入ください。

- ・今回は貴重な経験をありがとうございました。初めて本物の日本文化に触れた子どもも多く、興味をもって参加していました。
- ・とても楽しかったと言っていました。また、授業後も「あの声を出してみたい」と練習する児童もいました。
- ・子供たちにあった解説がとても分かりやすかったです。また、解説を聞いてから実演を拝見できたので、子供たちが狂言により関心を高めることができました。映像では見たことはあっても、実際に狂言師の方の声を聞き、動きを見たり体験したりできたことで伝統文化を伝承していく素晴らしさや大変さを子供たちはより感じているようでした。貴重な経験をありがとうございました。



◆令和6年度 実施の感想

～中学校／能楽公演～

参加者の声

敦盛の動いている状態から止まっている状態への切り替わりがとても綺麗で見ていて心地よかったです。

面をつけて歩行する体験では、下が見えず、床の感覚で歩行する必要があることがわかり、能楽師の方の経験・修行の積み重ねの深さを実感しました。また、能楽師の方は舞台上で声を長く出して張る必要もあり、多方面での努力が必要なおもわかりました。

人間の強さ、弱さ、悲しさなど、人生の持つ普遍的なテーマが鋭く描かれていて、物語がすごく深くすぐに引き込まれてしまいました。

声に圧倒された。本当にすごいと思う。仮面をつけているのにもかかわらず、微妙な光の当たり具合や動きで感情を表現する、シテの人も、見ていて本当にすごいと感服しきりだった。

能楽のことや楽器のことを詳しく教えてもらったので、能楽を見ているときも面白かったです。また、今回の能楽の題材の平敦盛の話は私が義経が好きで詳しく調べていたこともあり、事前に知っていて、面白かったです。

鑑賞に行く前までは、能楽は日常で触れることが少ないこともあり、敬遠しがちの存在だった。しかし、今回の鑑賞を通し、能楽の独特な雰囲気を楽しむことができました。

笛、大鼓、小鼓、太鼓の演奏が場面によってボリュームが変化していて、状況がよく伝わった。

能楽を見るのは初めてだったけど、楽しめました。あの小さめの舞台を端まで大きく使っているのが、前からでも横からでも楽しめる構成で素晴らしいかったです。

私は日本舞踊を昔やってたけど、まだ幼かったのもあり詳しいことはよくわからなかったので楽器や舞台などに付いて詳しく学べて日本舞踊により興味を持ってました。

担当教員からの声

Q.印象に残った内容をお聞かせください。

半能と楽器紹介

Q.ご感想・ご意見などを自由にご記入ください。

社会講座を見ていたので、さらに感慨深く見ることができました。貴重な機会を中学生に与えていただきありがとうございました。

